

2004年度中間決算説明会

- 2004年1月～6月 -

2004年8月4日

株式会社 **シーアイシー**

- 進行要領 -

- **中間期決算概況**
- **上期の状況と下期の取組み**
- **通期の予想**
- **CACの今後の方向性について**
- **質疑応答**

中間期決算総括

売上高は前中間期比 +460百万円 (+1.8%) 計画比 +8.0%

新規連結子会社 (CACマルハシステムズ他1社) の寄与約15億円等により、連結売上高は255億98百万円に

経常利益は前中間期比 743百万円 (47.8%) 計画比 +1.0%

- ・ CAC単体の減少 461M 55.1%
- ・ アイ・エックス・アイの減少 400M 49.6%
(IXIの2004年度業績見通しは増収増益の計画)

生産品質強化への取り組みが進展

PMO設置、設計インフラ監理レビューボード(初期段階でのプロジェクトレビュー)など組織的な管理強化が機能、不採算案件の抑止に実効

2004年度 中間期業績(連結)

	1Q 実績	2Q 実績	(中間期) 実績	(中間期) 期初計画	対計画 比	2003年度 中間期	前年 同期比
売上高	12,041	13,556	25,598	23,700	+8.0%	25,138	+1.8%
売上総利益	1,645	1,908	3,553	3,580	0.7%	4,351	18.3%
(対売上比)	13.7%	14.1%	13.9%	15.1%		17.3%	
営業利益	360	576	937	870	+7.8%	1,720	45.4%
(対売上比)	3.0%	4.3%	3.7%	3.7%		6.8%	
経常利益	266	541	808	800	+1.0%	1,551	47.8%
(対売上比)	2.2%	4.0%	3.2%	3.4%		6.2%	
中間純利益	71	141	212	200	+6.3%	142	+49.0%
(対売上比)	0.6%	1.0%	0.8%	0.8%		0.6%	

2004年度 中間期業績(単体)

	1Q 実績	2Q 実績	(中間期) 実績	(中間期) 期初計画	対計画 比	2003年度 中間期	前年 同期比
売上高	7,234	8,389	15,624	14,700	+6.3%	16,139	3.2%
売上総利益	932	1,104	2,037	2,230	8.6%	2,709	24.8%
(対売上比)	12.9%	13.2%	13.0%	15.2%		16.8%	
営業利益	171	236	408	330	+23.6%	859	52.5%
(対売上比)	2.4%	2.8%	2.6%	2.2%		5.3%	
経常利益	105	269	374	300	+24.9%	835	55.1%
(対売上比)	1.5%	3.2%	2.4%	2.0%		5.2%	
中間純利益	55	119	175	160	+9.6%	103	+69.7%
(対売上比)	0.8%	1.4%	1.1%	1.1%		0.6%	

前期発生した不採算案件の持ち越し影響
稼働率低下による不稼働損
生産品質強化への資源投入

200百万円
310百万円
80百万円

サービス別・業種別売上高 (連結)

(百万円)		2004年度中間期		2003年度中間期		増減	
		金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
売上高		25,598	100.0%	25,138	100.0%	460	+1.8%
サービス別	構築	17,161	67.0%	16,943	67.4%	218	+1.3%
	運用管理	8,436	33.0%	8,194	32.6%	242	+3.0%
業種別	金融	6,237	24.4%	5,837	23.2%	399	+6.8%
	製造	9,663	37.7%	9,644	38.4%	18	+0.2%
	サービス他	9,698	37.9%	9,655	38.4%	43	+0.4%

構築は、金融の増収により増加

運用管理は、CACマルハシステムズ他1社の寄与により増加

サービス別・業種別売上高 (単体)

(百万円)		2004年度中間期		2003年度中間期		増減	
		金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
売上高		15,624	100.0%	16,139	100.0%	514	3.2%
サービス別	構築	10,438	66.8%	10,159	63.0%	279	+2.7%
	運用管理	5,185	33.2%	5,979	37.0%	793	13.3%
業種別	金融	6,016	38.5%	5,358	33.2%	658	+12.3%
	製造	5,771	36.9%	6,904	42.8%	1133	16.4%
	サービス他	3,836	24.6%	3,876	24.0%	39	1.0%

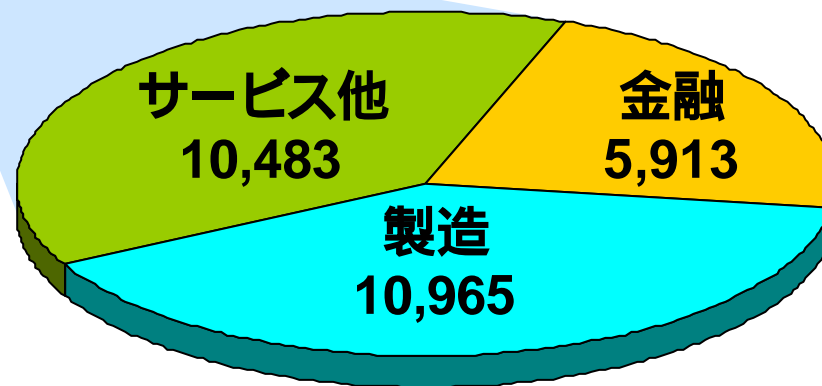
運用管理に伴うハード・ソフト売上の減少： 1,020百万円

金融は、証券・信託向けが好調で増収

製造はERPの減少、前期の食品メーカー向け大口SI案件の反動減により減収

受注状況 (連結)

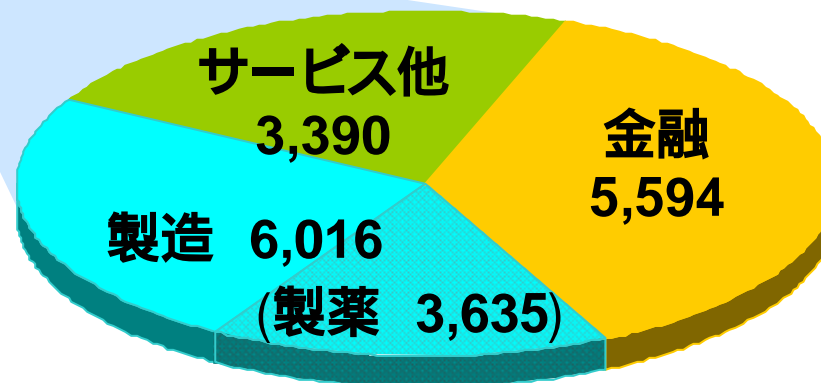
(百万円)	2004年度中間期		2003年度中間期		受注高増減	
	受注高	受注残	受注高	受注残	金額	増減率
構築	18,295	6,474	17,171	5,358	1,123	+6.5%
運用管理	9,067	5,101	8,546	4,206	521	+6.1%
合計	27,362	11,575	25,717	9,565	1,644	+6.4%



新規連結のCACマルハシステムズ他1社の寄与、およびIXIの増加により、受注高、受注残ともに増加

受注状況 (単体)

(百万円)	2004年度中間期		2003年度中間期		受注高増減	
	受注高	受注残	受注高	受注残	金額	増減率
構築	9,802	3,533	10,753	4,721	950	8.8%
運用管理	5,198	3,583	5,876	2,808	677	11.5%
合計	15,001	7,116	16,630	7,530	1628	9.8%



都銀 : 17.0% 信託 : 16.0% 製薬 : 14.0% 電気 : 36.2%
 損保 : +11.2% 食品 : +11.6%



上期の状況と下期の取組み



システム構築サービスの状況(金融)

上期の状況

- ・ 受注堅調により、前年実績を上回る売上を達成 (6.8%増)
- ・ Web系システムの実績が拡大
 - 例) 信託銀行向け大型年金管理システムで .NET を適用
 - 例) 信託銀行向け年金管理フロントシステムをWeb化(Java)
 - 他システムへもWeb化を展開中

下期の取組み

- ・ 利益体質強化：受注単価の変動に見合う原価構造の実現に向け、若手シフトなど要員配置を適正化。
- ・ 受注拡大策：大型年金管理システムの他行への横展開を計画
- ・ 金融再編対応：再編後の当社ポジション確保に向け、社長、担当役員から顧客へ直接アプローチを展開中

システム構築サービスの状況(産業)

上期の状況

- ・ 前年度持越しの不採算案件の影響等で、単体の売上総利益率が低下
- ・ ERPは見込み案件が延期となり、他案件で補えず減収
- ・ IXI、CAC共同でセキュリティソリューションを拡販

下期の取組み

- ・ アステラス製薬(株)発足に向けた統合案件の受注に全力
- ・ 中堅企業からの再構築案件の引合い活発化に対応し、ERP提案を推進中
- ・ 新規ソリューションで市場開拓を展開中
 - トレーサビリティシステム (改正薬事法対応)
 - 連結決算データ収集ソリューション (連結決算早期化対応)

システム構築サービスの状況(製薬R&D)

上期の状況

- ・ PRASMAブランドが浸透し、新規受注は拡大
 - 臨床統計解析業務、安全性情報管理システム運用支援など
- ・ 売上総利益率が前中間期比で低下
 - 要員拡大の先行 (前中間期比24名増)
 - 電子申請のマーケットの立ち上がりの遅れ

下期の取組み

- ・ 電子申請化支援は下期に入って引合い増加。7月の製薬協セミナーでテーマとなったこともあり、受注拡大を見込む
- ・ 臨床分野に加え、創薬分野の拡大にも注力。化合物データ管理システム構築の案件をターゲットに

システム運用管理サービスの状況

上期の状況

- 既存継続運用に加え、新たにマル八向け運用が増加
- NTT-Comとの協業成果が着実に拡大
NTT-Com社内運用案件の受注も決定
- 人事BPOサービスの受注が拡大、東陽事業所を開設し、
新BPOセンターとして機能強化

下期の取組み

- NTT-Com堂島センター (大阪)内にも運用拠点設置
東洋ゴム工業のセンターを移設予定
- アライアンス企業との連携により、ヘルプデスク、セキュリティ関連
を切り口に顧客基盤を拡大
- 運用改善のためのITIL導入コンサルティングから、当社センターへの
アウトソーシング受注につなげる取組みを推進

グループ会社の状況

アイ・エックス・アイ

- ・ GISを中心にノウハウ、ナレッジ活用で堅調に推移
- ・ 第1回 情報セキュリティEXPO (7月7日～9日)にCACと共同出展

オルビス

- ・ 東洋ゴム工業(株)の新北米工場向け生産管理システムを受注し、CACと共同で設計・開発

CACマルハシステムズ

- ・ 経営トップを含む人材交流、CAC-IP (運用方法論) 導入により、サービスの質を変革中
- ・ IT戦略パートナーシップに基づくフル・アウトソーシングサービスの本格提供に着手

生産品質強化への取組み

プロジェクトマネジメント強化

- 各ビジネスユニット内にPMO(プロジェクト・マネジメント・オフィス)を設置
- 生産品質強化本部に統括PMOグループを置き、各PMOと連携して全社レベルの統括・調整等を機動的に実施する体制を確立
- 設計・インフラ監理レビューボードで、主要プロジェクトに対し、受注前または設計初期段階でプロジェクト計画やアーキテクチャの妥当性をレビュー
- CAC公式認定・標準開発プロセス定義の適用を徹底

不採算案件の解消、発生抑止



通期の予想



2004年度通期業績予想 (連結)

(百万円)	中間期実績	通期予想	前期比	2003年実績
売上高	25,598	49,000	1.1%	48,471
売上総利益	3,553	7,400	9.8%	8,207
経常利益	808	2,200	21.0%	2,784
利益率	3.2%	4.5%		5.7%
当期純利益	212	720	135.3%	306
利益率	0.8%	1.5%		0.7%

2004年度通期業績予想 (単体)

(百万円)	中間期実績	通期予想	前期比	2003年実績
売上高	15,624	31,000	0.8%	30,760
売上総利益	2,037	4,700	12.3%	5,357
経常利益	374	1,200	30.2%	1,720
利益率	2.4%	3.9%		5.6%
当期純利益	175	500	131.5%	216
利益率	1.1%	1.6%		0.7%

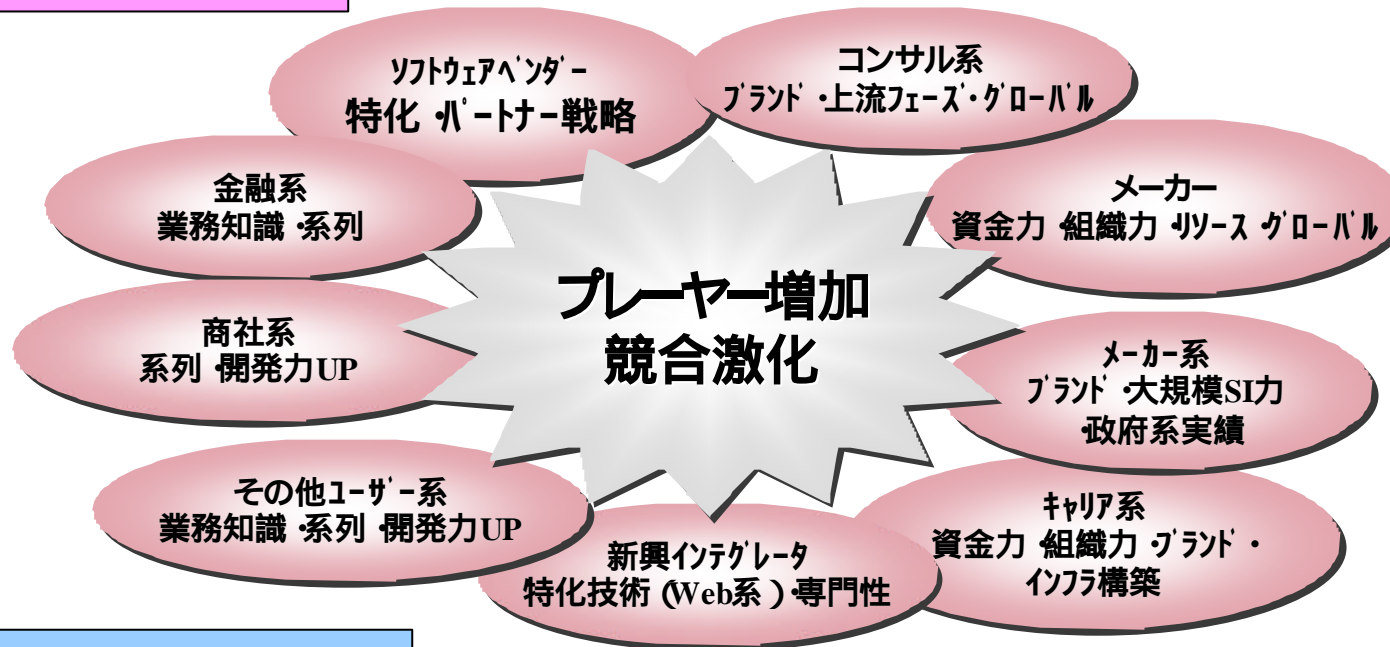
- ・不採算案件による赤字分は上期で解消
- ・受注拡大と社内要員活用により稼働率向上
- ・人員数の抑制を継続
(6月末人員数が前期末比 40名(新人28名を除く))

----- 中間報告 -----
CACの今後の方向性について
ー 本年10月末までに計画化ー

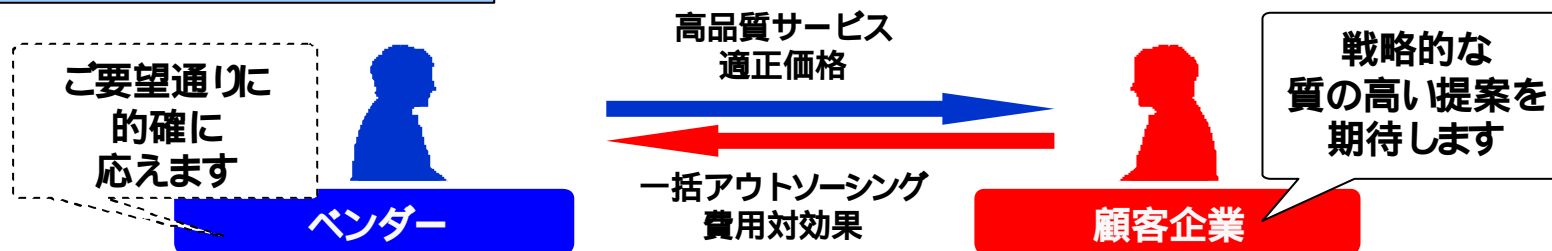
お客様に卓越したサービスを提供し続けるために

市場環境認識

1. 競争環境の激化



2. 顧客期待の変化



3. 顧客企業のメガ化

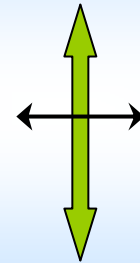
→ 大手企業同士の合併 経営統合は進む

CAC成長の方向性

既存サービス領域の得意分野 事業での成長

■ 業種業務特化

- < 金融 > 年金、国際、証券
- < 製薬 > 研究開発、基幹、営業
- < 食品 > < 出版 / メディア >



マーケット対応型体制へ

運用アウトソーシング事業

グループポートフォリオ見直し

新たな成長機会による成長

次代の30代中心のチーム (20名) で成長戦略を検討中
~ AMO、BTO、医療・地銀等の新規市場・業務
データストリーム検索 遠隔コラボレーション技術活用の新事業 ~

成長を支える人材育成基盤の強化

ITSSと連動した新人事制度の浸透
個別人材のスキルアップ方向の明確化
現場リーダー (PM、PL) 研修に最大フォーカス
次世代アーキテクト育成



【お問合せ】

株式会社シーエーシー

広報 Rグループ

TEL :03-3263-8955

FAX :03-3263-3495

< ホームページ >

<http://www.cac.co.jp/>